

地域課題に応じた「親プロ」講座の在り方 ～「親プロ」市町オリジナルワークシート（教材）の事例から～

広島県立生涯学習センター
主査 里本佳子

調査研究の概要

平成 20 年度から広島県の「家庭教育支援」のツールとして『親の力』をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」という。）ワークシート（教材）の開発と普及により講座は全県で展開され、各市町において学びの輪が広がっている。この「親プロ」講座を今後も市町に普及させていくために、「親プロ」講座を進行するファシリテーターの存在は欠かせない。また、「親プロ」講座を進行するに当たって使用しているワークシートも同様である。

そこで、県では、ファシリテーターのスキルアップを図るための研修会等を実施するとともに、ワークシートの開発・改善を行ってきた。今回の調査研究では、講座において使用するワークシートに焦点を当て、地域の特色を生かした「親プロ」講座を実施している 2 つの市町の事例を整理し、「親プロ」の更なる活性化につなげていく。

近年は社会の変化が著しく地域の課題は様々である。それぞれの市町で、「親プロ」講座を実施する際、講座依頼者のニーズは、多様化している。そのニーズに合わせてワークシートを選択し、展開案を作り、実施に至っている。ニーズに応じていくために、いくつかの市町ではワークシートをアレンジしたり、地域課題に合わせて独自に開発したりしている。このようなオリジナルのワークシートを活用している市町の 1 つに、尾道市がある。ここでは、文部科学省の家庭教育支援チームとして登録をされている「スマイル ぱれっと」が活動している。また、府中町でも既に活動している「くすのき」が家庭教育支援チームとして申請中である。この 2 市町の共通点は、ファシリテーターと行政とが連携して、毎月 1 回の定例会をしていること、その会議の中で地域課題の把握に努めていることである。このことにより「親プロ」講座を持続可能なものとし、その地域の家庭教育支援事業の活性化につなげている。

実際にオリジナルのワークシートを作成する際には、地域の家庭教育の課題からテーマを決め、ファシリテーターと行政との協議により、地域の特色が表れたワークシートが開発されている。オリジナルワークシート作成をきっかけに、ファシリテーターはより具体的に地域の課題に向き合い親プロを進行することができ、この成果が次の実践への動機付けとなり実践後の振り返りを通して改善を図ることにつながっている。

今後、それぞれの市町において、地域課題を踏まえたオリジナルワークシートを作成していくことになれば、地域課題の把握やファシリテーターのスキルアップ講座での活用、市町でのファシリテーター間のネットワーク化のきっかけ作りにつながり、学びの輪が広がることで、市町の家庭教育支援事業が活性化され、その効果が更に県内全域に浸透していくことが期待できる。

調査研究の構成

- 1 「親プロ」の事業経過
- 2 市町オリジナルワークシート（教材）の事例について
- 3 市町オリジナルワークシート（教材）のポイント
- 4 市町オリジナルワークシート（教材）の開発のための作成シート
- 5 市町オリジナルワークシート（教材）の今後の方向性
- 6 参考文献